

## 令和3年度三田市高校生議会 質問書

**【質問者】** 14番（特別枠） 三田学園高等学校 2年 濱田 颯太（はまだ そうた）  
15番（特別枠） クラーク記念国際高等学校 三田キャンパス 1年  
松田 颯汰（まつだ そうた）

**【担当課】** 行政委員会事務局 選挙管理委員会

**【答弁予定者】** 行政委員会事務局長

**【質問事項】** 若者の政治参加について

**【質問内容】**

14番 高校生議員の三田学園高等学校2年の濱田 颯太です。クラーク記念国際高等学校 三田キャンパス1年の松田 颯汰です。私たちからは若者の政治参加についてお伺いします。

松田：私にはこのテーマを選ぶに至った衝撃的な出来事がありました。高校に入学して初めての生徒会選挙での投票者の数です。オンラインで開催、投票されたのですが2割程の人達しか投票に来ていなかったのです。生徒会に入っている私は困り果てました。何を望まれているのか、意見や希望を推測できずに終わってしまっていていいのかと悩みました。そして私は同じことが政治の選挙でも起こっているのではないかという考えに至りました。選挙にいかないことは意見を出さないこと。それは投票を受ける側にとっても大きな問題だと実感しました。先述の経験を踏まえて私はこの問題の解決、改善に少しでも役立つ提案ができればと思い、このテーマを選びました。

濱田：この数年ずっと考えていることがあります。僕たちの世代が大人になった時この国の未来は明るいかどうかです。僕は明るいとは思えません。実際に高校生にアンケートをとってみると6割近くもそう感じているのです。僕たちの未来を暗くするのは少子高齢化、年金問題、環境問題、経済問題、貧困問題など数多くの深刻な社会問題です。これらの問題は僕たちの未来に直結する問題であり、主人公は今の現役世代や高齢者の方々ではなく人生100年時代と言われる時代に生きる僕たち若者だと思います。この先の未来を明るくするには私たちの政治参加が必ず必要です。だから今回このテーマを選びました。

次に、私達二人がこのテーマについて問題だと考えている事象をお話させていただきます。

松田：私は特定世代、今回は若者の投票率が低いことが発端として起きる問題と、それに付随する幾つもの問題から2つの問題をピックアップし挙げさせていただきます。

#### ①投票率の低い世代の意見が伝わりにくくなる

先程話したとおり、投票しないということは賛成や反対といった意見が政治を直接行う側に届かないということです。それが特定の世代のみに起こった時どうなるのでしょうか？ その世代の意見や意識がわからないとなっても、政治は行わねばなりません。そうなれば必然的に投票率の低い世代の意見は伝わりにくくなり、投票している世代の意見を基に政治を行うことになるでしょう。

#### ②意見が汲まれないことによる人口流出

特定世代の意見を参照できずに政治が行われるとどのような影響があるのでしょうか？ もっともわかりやすいものとして人口流出があると考えます。

自分達が望んでいることが行われることなく、他の自治体がそれを行っている場合市民はどうするのでしょうか。もしその人が転居するタイミングだったとするなら、市外で居住地を探すでしょう。小さな積み重ねではありますが、これらはいずれ人口減少を加味しても目に余る大きな数字として現れます。

#### ③更なる投票率低下

もしも政治が自分達の世代の意見を汲まない政治を行っている場合、その世代の人達はど  
う思うのでしょうか？ 私ならその自治体の政治に嫌気が差すでしょう。そういった感情、政治からの疎外感は政治が自分達の為になることをしてくれないという結論に繋がりがねません。現状投票に行っている人も「どうせ変わらない」と投票に行かなくなってしまうかもしれません。これは非常に問題がある悪循環と言えるでしょう。

濱田：僕は様々な問題を引き起こす若者の投票率低下について、主に3つの問題点がある  
と思います。

#### ① 誰に投票していいかわからない。

昨年の総選挙の際も感じたのですが、ジェンダー、給付金、教育、子育てなど考えること  
が多すぎて政治が好きではない人にとってはなかなか難しいと感じます。また政治家の方々  
や各候補者のチラシなどの広報紙や選挙の情報が固すぎる気がします。若者はビジュアルに  
厳しいです。その上政治について友達などと話すことがタブーのような空気が流れています。  
そのため多くが政治について1人で考えてしまい、政治を理解しようとするのを諦めてし

まったり、めんどくさいと思ってしまいます。

② そもそも投票の仕方がわからない。

僕は具体的に何を投票所に持っていけばいいのかはまったくわかりません。学校で政治については学びますが、一度も投票の仕方を習ったことがありません。人間自信がないと簡単には行動に移せません。

③ 選挙だけのためにわざわざ足を運びたくない。

選挙に行く暇があれば遊びに行くのが若者です。正直僕も友達を誘って選挙に行こうとは思えません。私達はこれらの問題を危惧し、在学している三田学園とクラークで意識調査を行いました。

その結果として（スライド1）高校生の多くは自分達が政治参加するべきだと思っているものの、（スライド2）過半数が自分の一票で世の中を変えることができると思っていないか、変えることができるかわからず、選挙に行き投票することに価値を見出している人は半数以下であることがわかりました。

この状態ではいくら期日前投票などで当日予定があっても投票できるようにしていても、わざわざ投票所に足を運ぶ若者は過半数を超えることはないでしょう。これは大きな問題点です。

これらの問題を踏まえて、私達が考える将来の三田市の形、この後行う提案で目指す三田市像をお話させていただきます。

松田：私はこの提案が最終的に三田市の投票率、特に若者の投票率向上につながるものとなり、三田市がより若者の意見やニーズを把握した上でそれらを活かした市政を行い、若者の人口流失を減らし人口流入を増やすものになれば最も良い結果だと思っております。また主権者教育の拡充、カリキュラムの創意工夫を凝らした先に10年、20年後の世代の投票率も高い水準を示すようになることが私の願う三田市の将来でもあります。

濱田：「若者の投票率が日本一の三田市～三田から全国へ～」若者の投票率が高いということは若者の意思が反映された政治が進むということです。若者が輝くことで子育て世代も子育てがしやすくなります。僕が大人になった時の日本はどうなっているのでしょうか。年金問題や少子高齢化は解決しているのでしょうか。政治参加して意思を表示しないとそのツケは未

来の私たちに回っています。その時にはもう手遅れなのです。だから今、若者の政治参加が必要なのです。

私達が考える将来の三田市の形を実現するために、是非ともこの後に提案させていただく内容を三田市にも熟議をお願いしたく存じます。宜しくお願い致します。そこで私たちが今回提案させていただくのは3つです。

1つ目は長期的な提案として、生徒会長選挙改革を発案させていただきます。

本改革の概要は各学校で行われている生徒会選挙を地方自治体や国政の選挙に近づけて行うというもので、学校内での演説やチラシ配布、そして政策議論を全校生徒の前で行うなどの選挙活動から、投票を体育館など実際の投票所に近い場所で行うことや、選挙管理委員会などが支援した上で実際の投票箱を使用し、翌日結果を発表するなど限りなく実際の選挙に近づけることを目的にしています。また複数名の議員の方々が生徒会長選挙中の学校に訪れ、立候補している生徒などに選挙活動について教える活動の実施も効果的ではないかと考えております。仲間とともに活動することや、友達やクラスメートと立候補者の政策について議論することにより主体的に選挙を「経験」し「学ぶ」ことができると私達は考え、これを提案しました。

2つ目は中期的な提案として、投票所の近くにイベント会場を設けることを提案させていただきます。若者や子供が魅力的に感じる三田市内の様々なお店、例えば「アパレルショップ」や「スイーツ店」、「ラーメンなどの飲食店」に出店していただいたり、市民や市内で活動している団体が作品等を展示できるスペースを用意し、それらの購入や入場には政治的中立性の確保の為に投票済証の確認を必要とすることによって、若者や子育て層の投票率上昇を狙います。

またイベントに関連付け子供を投票所まで連れて行くことの推進によって将来的に次の世代が投票に行くことのハードルを下げるなども目標とし、選挙の度に投票率が上がる好循環を目指します。

3つ目は短期的な提案として、選挙管理委員会などが周知される選挙情報のビジュアル改革を提案させていただきます。現状の選挙情報は硬すぎて若者に伝わりづらく、広く情報を有権者に届けられているとは言い難いです。デジタルネイティブである若者にとっては他のコンテンツの方が圧倒的に見やすいです。

私達はビジュアルデザインについても在学している三田学園とクラークでアンケートを行いました。

(スライド3) その結果高校生の多くは選挙の情報を見る際は情報が詳細に書かれているwebサイトよりも、手軽に読めるよう簡潔にまとめられたwebサイトを読みたいと思っているということがわかりました。

(スライド4) また、高校生の過半数がwebサイトを閲覧する際に写真やwebデザイン、ビジュアルを意識しているという結果も得ることができました。

これらの結果を元に私達は幾つかの提案を行います。まずは若者向けにデザインされた特設サイトの作成です。情報を端的にまとめ、スマートフォンなどで気軽に閲覧ができ、webデザインも若者の声や若者のメンバー、実際に三田市内でデザインを学ばれている方などを入れるなど、工夫を凝らした上でそれらの活動を積極的に複数の会員制交流サイトで告知していくことで若者が選挙情報に触れやすくなります。またインターネット以外でも選挙期間中に上げられる「のぼり」のデザインなどを工夫したり、選挙公報などでも特設サイト等の存在をアピールすることにより若者が政治や選挙を身近に感じやすくすることが目的です。

以上のことにつきまして、市の考えをお聞かせください。

---

## 【答 弁 内 容】

濱田議員と松田議員ご質問の「若者の政治参加について」お答えいたします。

次代を担う若者の皆さんが、選挙や政治に関心を持つことは、これからの社会の発展や市政推進のために大切なことであると考えます。

そのために、投票率が低いと指摘されている若者の投票率が向上するような環境を整えることが重要であり、今回、ご提案いただきました内容は、選挙を知る、そして投票に行くための足掛かりとなる具体的な提案であると受け止めており、今後の啓発活動の参考としていきたいと思っております。

昨年10月に行われました衆議院議員総選挙では、本市における全体の投票率は58.97%でしたが、10代では42.90%、20代では35.59%と、他の年代に比べると若者世代の投票率は低い傾向にあります。

先ず、提案1点目の「生徒会長選挙改革」についてですが、現在、選挙管理委員会では、

各学校で行われる生徒会の役員選挙の際に、投票箱や投票記載台の貸出し、選挙のしくみやルールなどについて出前授業を行うなど、より選挙を身近に感じてもらえるような取り組みを行っております。この中で、生徒会の役員選挙に関心を持ち、友達と立候補者の政策について議論できる仕掛けづくりについても支援していきたいと考えております。

2点目の投票所の近くにイベント会場を設けることについてですが、投票所は、有権者の数や利便性等を考慮して、小中学校の体育館や地域の集会所などに設置してきた経緯からも、投票所をイベント会場の近くに変更したり、新たに設けていくことは難しいと考えます。

一方、投票日当日に仕事やレジャーなどで投票に行けない方のために期日前投票所を一定期間、商業施設や大学構内に設けており、さらに若い人達にも周知を図りながら、投票率の向上に努めていきたいと考えます。

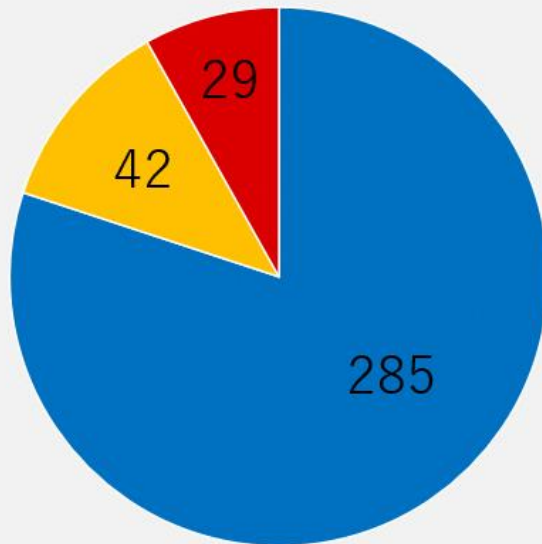
また、お子さんを投票所に連れて行くことについて、投票所には満18歳未満の方も入ることができますが、実際に投票している姿を見ることで、将来の主権者としての自覚を持ってもらうために、有効な意識啓発につながるものと考えられます。なお、その際は、投票所のルールやマナーを示しながら周知啓発に努めていきたいと考えております。

最後に提案いただきました若者向けサイトの作成についてですが、選挙情報は幅広い有権者に提供していく必要があることから、若者に限定したサイトを作成することにつきましては、今後、調査研究していきたいと考えております。

現在、選挙情報は、選挙公報や選挙啓発機関紙「めいすいだより」などにより有権者の皆さんにお伝えしておりますが、今後、若者を含め多くの有権者の皆さんが見やすくなるよう、小中高生から応募いただきました啓発ポスターや明るい選挙のイメージキャラクター「めいすいくん」などのイラストやデザインをさらに活用しながら工夫していきたいと考えております。

また、昨年行われました兵庫県知事選挙と衆議院議員総選挙では、若者の投票率向上につながるため、選挙に行かれたことを証明する投票済証のデザインを市内在住の大学生に提案いただきました。今後、濱田議員や松田議員をはじめ若い皆さんにもこういった企画立案段階から積極的に参画いただき、若者の感性やアイデアを取り入れた啓発活動を継続的に進めてまいりたいと考えておりますので、是非今後ともご協力をお願いします。

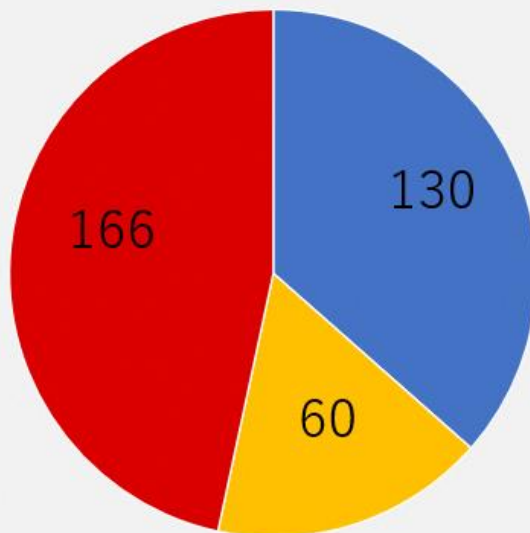
## 若者も政治に参加するべきだと思いますか？ (選挙に行くなど)



- 参加するべき
- わからない
- 参加しなくてもよい

三田学園とクラーク記念国際高等学校三田キャンパスにて実施したアンケート結果を元に作成。回答を得られた356人のデータを使用。

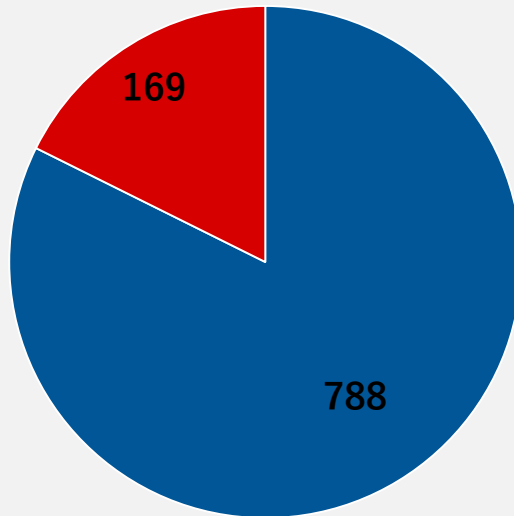
## 自分の一票で世の中を変えられると思いますか？



- 思う
- どちらでもない
- 思わない

三田学園とクラーク記念国際高等学校三田キャンパスにて実施したアンケート結果を元に作成。回答を得られた356人のデータを使用。

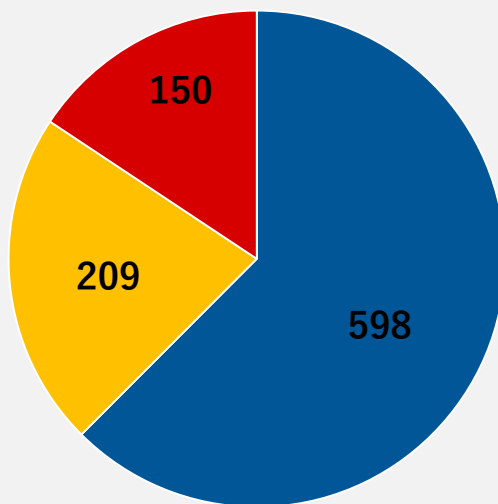
選挙に関する情報が手軽に読めるよう簡潔にまとめられているサイトAと選挙に関する情報が詳細に書かれているサイトBのどちらを利用したいと思いますか？



- サイトA
- サイトB

三田学園とクラーク記念国際高等学校三田キャンパスにて実施したアンケート結果を元に作成。  
回答を得られた957人のデータを使用。

あなたはホームページ等を見るときに写真やそのデザイン、ビジュアルを意識しますか？



- する
- わからない
- しない

三田学園とクラーク記念国際高等学校三田キャンパスにて実施したアンケート結果を元に作成。  
回答を得られた957人のデータを使用。